

石川県文化財保存修復工房設立20周年記念

よみがえった文化財

一加賀藩による文化財修復の歴史と

石川県文化財保存修復工房のわざー



重文《西湖図》秋月等観 石川県立美術館蔵 平成25年度修復

前田家 武の装い I

■ 茶道美術名品選 II

■ 新収蔵品展【絵画・彫刻】

■ 春の優品選【工芸】

主催：石川県立美術館
 特別協力：(一財)石川県文化財保存修復協会
 後援：文化庁、北國新聞社
 助成：(一財)地域創造

4月22日(土)～5月28日(日) 会期中無休

学芸員の眼

歴史的背景を考えると、石川県文化財保存修復工房の設立は、文化財の修復に積極的に取り組んだ前田綱紀の思想を継承したのと言うことができます。もちろん「修復」が時代を超えていつも意識されていたのではなく、石川の文化風土に自然な形でとけ込んでいたものが再認識されたと考えるべきでしょう。そしてこの風土は、強い求心力をもって当地に文化財の集積をもたらしました。本号の表紙を飾った重文《西湖図》秋月等観筆もその一つです。雪舟の筆として伝来したこの作品と、その影響が認められる狩野元信、狩野探幽による同画題の三幅は、江戸時代に特別な意義を持っていたようです。実業家で近代数寄者でもあった畠山一清氏が、一九五九年に石川県美術館の開館を機にこの三幅を寄贈されたことにも、当地の文化風土を継承する者としての矜持を感じます。

石川県は一九九七年に、全国に先駆けて公立美術館の付属施設として文化財の保存修復工房を設置しました。文化財の修復といえば、仏像や考古出土品を想像されるかたも多いかも知れませんが、石川県文化財保存修復工房は絵画や書籍・典籍類を主体として実績を重ね、近年は増加する漆芸

作品の修復依頼にも積極的に対応しています。本展は、この文化財保存修復工房が設立されて本年度二〇年となることを記念して、藩政期から修復工房開設に至る石川の文化風土を再認識しつつ、文化財の保存・修復の現状と今後の展望を考察するものです。

「装潢」という語が古文書や経巻奥書に認められるように、文化財を守り、良好な形で伝えることの重要性は、古く奈良時代八世紀には認識されていたようです。そして経典類のみならず、対象を広く人間の知的な活動全般に拡大して、保存・修復の思想を徹底したのが加賀藩五代藩主・前田綱紀

でした。前田綱紀は幅広く書籍・典籍の収集に意を注ぎ、収集困難なものについては借用して写本を作らせ、返納の際には書物の修復や収納箱の新調、あるいは蔵の修繕を行い保管に際しての助言を行うなど、今日の文化財保存修復の先駆けとも言える活動を積極的に行いました。

江戸時代の大名家が、自身の格式を誇るために貴重な書物を高価に購入した例は珍しくありませんが、前田綱紀の取り組みはそれらと一線を画すものでした。そこには、書物を通して学習することが人格を育成するという確固たる信念があり、そのことが書物の体系的な集積と、それらを活用した教育制度の充実との政策に結実し、石川の文化風土の基盤となりました。文化財保存修復工房の設立も、このような風土に立脚したものであると言えるでしょう。

そこで本展では展覧会を大きく二つの章に分け、第一章では歴史的背景として加賀藩主・前田家

よみがえった文化財

—加賀藩による文化財修復の歴史と石川県文化財保存修復工房のわざ—

による文化財保存修復の実践を、ユネスコ世界記憶遺産・国宝《東寺百合文書》(京都府立京都学・歴史館蔵)や重文《一遍上人絵巻》(前田育徳会蔵)などの貴重な作品を中心としてご紹介いたします。このうち、《一遍上人絵巻》は重文指定の七巻すべてを会期中に展示替えを行いながら公開します。さらに重文《吾妻鏡》(前田育徳会蔵)は、今回初めて伝存する前田綱紀の時代の修復に関する文書と合わせて展示します。

そして第二章は、草創期からの石川県文化財保存修復工房による修復実績の集大成として、重文《石黒信由関係資料》(高樹会蔵)をはじめ、仏教絵画から粟津潔《海を返せ》(金沢21世紀美術館蔵)まで、北陸を中心とした地域の至宝の数々を修復過程の画像などを交えて展示します。これまでにない観点の展覧会に是非ご期待ください。

■観覧料

一般	8000 (6000) 円
大学生	6000 (4000) 円
高校生以下	無料

() は20名以上の団体料金

※コレクション展示含む全館料金

■開館時間

午前9時30分～午後6時

(入館は閉館30分前)

■関連イベント

◆記念シンポジウム

「文化財を守り伝える」(入場無料・先着順)
メイン・ゲスト

前田利祐氏(前田家第十八代当主)

基調講演

地主智彦氏(文化庁美術学芸課文化財調査官)

パネリスト

・村上 隆氏

(高岡市立美術館長・京都美術工芸大学副学長)

・中越一成氏

(一財・石川県文化財保存修復協会代表)

司会/嶋崎 丞(石川県立美術館長)

日時/5月4日(金) 午後1時30分

会場/石川県立美術館ホール

◆ギャラリートーク(展覧会観覧料が必要です)

会期中の毎週日曜日午前11時から、当館学芸員や

修復工房の技術者が、展示室で解説を行います。

(4月23、30、5月7、14、21、28日)

◆修復作業特別実演(参加無料)

修復技術者が修復作業の実演を交えて

紹介します。

日時/4月30日(日)

①午前10時～10時30分

②午後2時～2時30分

会場/修復工房見学スペース



県文《十六羅漢図》總持寺祖院蔵



重文《石黒信由関係資料 加越能三州部分略地図》高樹会蔵

前田家 武の装い I

4月20日(木)～5月28日(日) 会期中無休

学芸員の眼

本文でもふれましたが、一昨年の特別展「加賀前田家 百万石の名宝」を契機に加賀藩主・前田家が推進した文化政策の戦略的な側面に注目しています。収集や制作の水準や芸術的完成度、そして政策全般に発揮される獨創性で幕府を圧倒することが「文化決戦」の眼目と言えますが、加賀藩はさらに直接的な武力による決戦も視野に入れていたことが、今回の展示作品から垣間見えます。「アート」は本来技術という意味であつたことを考えると、前田家ゆかりの文化財を単に美の視点から論ずることはできないのではないのでしょうか。特に外様大名であつた前田家の場合、重層する意味を総合的に読み解いて行く新たな観点が必要であることを痛感します。

武将にとって戦時に着用する甲冑や陣羽織は、自身の武勇や教養、美意識をあらわす重要な媒体でした。そこで戦国時代以来、武将たちは甲冑・陣羽織のデザインや材質に強いこだわりを持ち、時には奇抜な形状や斬新な意匠のものが制作されました。

加賀藩主・前田家も、文武二道に卓越した家柄として意匠や素材を入念に吟味しました。たとえば、二代藩主・前田利長のトレードマークとも言える《鯨尾形兜》ですが、鉢の上部は和紙に漆を塗り、銀箔を押ししています。利長の身長が二メートル近くあつたと伝えられていることを考えると、敢えて「変わり兜」を着用しなくてもこれで十分周囲を威圧する効果があつたのではないのでしょうか。

そして日本史上屈指の文化人大名と言える五代藩主・前田綱紀の《笠形模楯無甲冑》も注目すべき作例です。射撃の名手だつた綱紀は、当然銃器による狙撃も想定していたようで、外見から想像する以上に堅牢な構造となっています。そして、綱紀はこの甲冑を着用して、戦場で自在に采配を振る体力があつた

ことも興味深い事実です。まさに文武二道の体現者として、和漢洋の書物を自在に読みこなし、武芸にも達していたことがここで改めて確認されます。その他、綱紀の所用した陣羽織も《百工比照》の監修者に相応しい形状・意匠となっています。

加賀藩の文化政策は、時に幕府の警戒を和らげる目的があつたと解釈されますが、特に綱紀の事績や武具を検証すると、そのような見方は一面的であることを改めて痛感します。

そして今回は、足利將軍家から豊臣家、徳川家康の家臣本多家と伝わり、三代藩主・前田利常が一六四九年に本阿弥光甫に命じて調えさせた重文《小さ刀拵》もあわせて展示します。

第5展示室[工芸]

春の優品選

4月20日(木)～5月28日(日)

会期中無休

展示期間が四月～五月に及ぶ今回の展示では、春から初夏にかけての空気のような、さわやかな作品をご紹介します。まず入口には、**裕三彩亭**《九谷呉須上絵大皿「養掛島の景」》を展示しました。三彩亭というのは、油彩画家・裕伊之助が陶芸作品を手がける際に用いた号です。彼は徳田八十吉について絵付を学び、加賀市吸坂で窯を開くなど、本格的に作品制作を行いました。本作品は、昭和四十六年の春、静岡県に滞在した折に見た伊豆半島・養掛島の風景を題材にしています。ここではモノクロ写真でしかご覧いただけないことが残念ですが、晴れ渡った空の

青と、あざやかな黄で表現された菜の花が目を惹きます。また、この作品の隣にはもう一点、別の洋画家による作品を並べています。こちらは中村研一《菖蒲図皿》です。中村は岡田三郎助に学んで東京美術学校洋画科を卒業、高光一也の師としても知られています。その一方、初代徳田八十吉窯で絵付けを行い、数多くの陶芸作品も残しました。皿からはみ出さんばかりに描かれた菖蒲は、こちらに向かってくるかのようです。二人の洋画家・陶芸家による作品から、どうぞ一足早く初夏の風を感じてみて下さい。



裕三彩亭（九谷呉須上絵大皿「養掛島の景」）

第2展示室[古美術]

茶道美術名品選Ⅱ

4月20日(木)～5月28日(日)

会期中無休

今回は、展示作品の取り合わせをご紹介します。室町時代以降、茶道具の評価には生産地が重要な意味を持ちました。そこで本展の大まかな取り合わせも唐物、高麗物、和物、和蘭陀となっています。唐物からは《古銅柑子口花入》や千利休所持と伝わる《青貝福祿寿香合》、前田家伝来の《黄天目》などを選びました。高麗物は共に県文に指定されている《青井戸茶碗 銘宝樹庵》、《粉引茶碗 銘楚白》を筆頭に、《小井戸茶碗 銘玉兔》、《熊川茶碗 銘沢辺》などが続きます。

そして、唐物、高麗物に匹敵する美意識の発露となったのが和物でした。今回は、利休の美意識のみならず、その生き様をも象徴するものと言っても過言ではない《黒楽茶碗 銘北野》長次郎作が展示されていることから、利休の高弟・古田織部や千家三代の宗旦の茶杓、花入を合わせました。さらに利休と長次郎のつながりから、楽家という観点で取り合わせて

みました。まず作陶を通じて楽家と親密な間柄だった本阿弥光悦に注目し、《古今集巻第十八》（本阿弥切）や書状、《赤楽茶碗 銘山科》などを選びました。加賀藩五代藩主・前田綱紀に茶堂茶具奉行として仕官した裏千家四代の仙叟宗室は、楽家四代・一入の弟子であった土師長左衛門を茶碗造り師として同道し、金沢を代表するやきものである大樋焼が誕生します。そこで今回は、初代大樋長左衛門の県文《鉛釉烏香炉》、《鉛釉獅子香炉》などのほか、仙叟好みとして加賀藩の御用釜師・初代宮崎寒雉の県文《葫蘆様釜》（天徳院蔵）ほかを合わせました。

江戸時代にはいると、「侘び」から「綺麗さび」へと美意識が転換してゆきます。その美意識を具現したのが野々村仁清でした。別室の「雉香炉」に合わせ、重文《色絵梅花図平水指》にも改めて注目いただきたいと思えます。そして、「綺麗さび」の延長に県文《和蘭陀白雁香合》を合わせてみました。



県文《青井戸茶碗 銘宝樹庵》

第4展示室 [絵画・彫刻]

新収蔵品展

4月20日(木)～5月28日(日) 会期中無休

日本画では、この三月まで名古屋芸大で教鞭を執っていた荒木弘訓の、日展特選作から近作までの四点が収蔵となりました。風景を題材に、自然や時間を意識した牙えた表現が見どころです。加賀市に生まれ金沢美大を卒業した、本県出身の作家です。

彫刻部門では、長谷川大治郎の木彫三点・ブロンズ一点の四点です。昨年「特集 長谷川大治郎・梶本良衛・木彫二人展」の出品作品です。当館には木彫作品の収蔵品が少なく、頂きました作品は今後、彫刻部門における多様な展示に活用されます。

油彩部門では、円地信二、江守マリ子、奥田憲三、高光一也、立見榮男、開光市、山崎百々雄の各作品を作家、遺族、所蔵者の方から寄贈いただき、総点数は二十三点です。人物、風景、静物、幻想、超現実、プロレタリア系など作風とテーマは多岐にわたっています。円地の内面を

想起させる女性像、奥田の平明で大地を讃えた風景、江守の重厚な色調で描く人物と静物、高光の戦後間もない時期の裸婦とパリ留学時代の風景、立見と開、山崎の作品はそれぞれ特集としては大規模な展示を行った際にご寄附いただいた作品です。いずれも渾身の作品です。

水彩・素描部門では、昨年開催した「挿絵の鬼才 山崎百々雄展」を契機に、山崎百々雄の挿絵一三四四点が新収蔵されることになりました。大正三年に金沢市に生まれた山崎氏は、司馬遼太郎や池波正太郎ら昭和を代表するスター作家から圧倒的な支持を得て、生涯に三千点を超える挿絵を描きました。今回は司馬遼太郎「風の門」、柴田錬三郎「英雄ここにあり」、池波正太郎「さむらい劇場」などのシリーズものが一括で収蔵となりました。



円地信二《光の街》

春のミュージアムウィーク

新緑の兼六園周辺文化の森を満喫する「春のミュージアムウィーク」。当館関係のイベントをすこし紹介しましょう。

◆展示室でスケッチGO!

4月29日午後1時～3時(所要時間約40分)。どなたでも気軽にご参加いただけるプログラムです。

◆講演会「つがわの工芸の歴史を聞く」

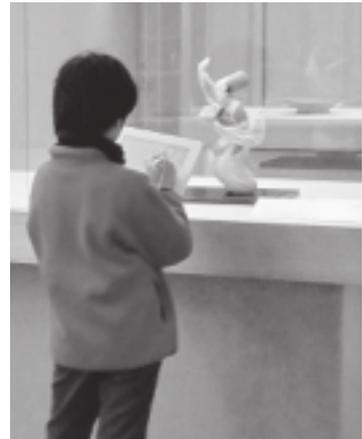
5月3日午後1時30分～3時。講師は木工芸の人間国宝 川北良造氏。川北先生の軽妙で含蓄深いお話をどうぞ。こちらは申込が必要です。※くわしくはチラシをご覧ください。

5月の行事予定

21日	甦る文化財 表装の技術 (48分)
14日	文化財を守る人たち (44分) 国宝8 東寺 (26分)
■映像ギャラリー	午後1時30分～ 美術館講ホール 入場無料
20日	加賀文化にみる文化財修復と今日の文化財修復工房 高嶋清栄
13日	茶の湯の思想―禅とキリスト教の接点― 村瀬博春
■土曜講座	午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料

出世街道はじまります

「進め！出世街道」は、兼六園周辺文化の森を中心に開催される体験メニューに参加しながらポイントを集める小・中学生向けのスタンプラリー。集めたスタンプの数によって足軽から大将、大名、將軍と出世していくもので、好評につき今年度も開催しています。



「兼六園周辺文化の森 ミュージアム ウィーク」は、四季ごとに多彩なイベントを開催しており、昨年度は夏休みだけでなく、一年を通して「進め！出世街道」のスタンプをお目当てに、たくさん子どもたちが美術館開催のイベントにも参加してくれました。

美術館での人気イベントは「展示室でスケッチGO!」。小さなお子さんでも手軽にお絵かきできる磁気式のボードを使い、展示室で出会ったお気に入り作品をスケッチするワークシヨップです。子どもをはじめ、どなたでも参加でき、家族みんなでスケッチ体験をされる方をはじめ、大人の方の参加も珍しくありません。スケッチという「苦手だから」と遠慮がちだった方もいざやってみると、磁気式ボードの自分なりのテクニクを見つけるなどし、体験された皆さんには「楽しかった」と好評です。描いたスケッチは、ポストカードにプリントアウトして持ち帰ることができ、このカードを受け取る時は、どなたも笑顔いっぱい。担当スタッフにとっても、たくさん笑顔と出会える心温まる講座です。

国際博物館の日

5月18日(木)は、国際博物館会議(ICOM)が提唱する「国際博物館の日」です。今年のテーマは「歴史と向き合う美術館―博物館は何が語れるか―」です。この日は、例年通り当館ではコレクション展の観覧を無料とします。

ゴールデンウィークおすすめの展覧会

新緑の美しいこの季節、普段はなかなか行けない美術館へも、足を伸ばしてみませんか。

【北信越】

「原安三郎コレクション」

広重ビビッド―広重・北斎・国芳、至高の初摺―」

3月18日～5月21日

新潟市美術館(電話…025-223-1622)

「ありがとう、さようなら信濃美術館 休館前の最後の絵画展

花ひらくフランス風景画 珠玉の名品 ミレー、コロ、シスレー、モネ」

4月15日～6月18日

長野県信濃美術館(電話…026-232-0052)

【東京】

「MAKEIE 時絵・美の万華鏡展」

4月1日～7月2日

東京富士美術館(電話…042-691-4511)

「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」

3月14日～5月21日

東京国立近代美術館(電話…03-5777-8600)

【関西】

「木×仏像 飛鳥仏から田空へ 日本の木彫仏一〇〇〇年」

4月8日～6月4日

大阪市立美術館(電話…06-6771-4874)

《黒楽茶碗 銘北野》くろらくちゃわん めいきたの

桃山16世紀 口:10.9~10.4 底径:4.8 高さ:8.4(cm)

初代長次郎 しょだいちょうじろう



「北野」との銘が付けられた本碗には、表千家四代の江岑宗左による箱書きと添え状があり、そこからかつて利休の判があったが現在は消えていることと、江岑の時代の所有者は興善院だったことがわかります。やがて「北野」は興善院から塗師の中村宗哲家の所持するところとなり、千家茶道中興の祖とされる表千家七代の如心斎がそれを買い取り、江戸の豪商・冬木家が利休の遺偲を千家に戻した際に、その返礼として利休の古田織部宛消息とともに冬木家に贈られました。その後、大名茶人として名高い松江藩主松平不昧が所蔵し、「大名物」に格付けられました。

初代長次郎による黒楽茶碗は、利休の佗茶の精神を具現したものと理解されています。しかし豊臣秀吉はこの黒楽碗を嫌っており、利休もそのことを認識していたことは、博多の豪商で秀吉に厚遇され、千利休とも親交があった茶人・神谷宗湛による『宗湛日記』から知ることができます。「北野」の銘の由来には明確でない点がありますが、如心斎は本碗が美に殉じた利休の精神を象徴するものと考えていたのではないのでしょうか。長次郎の名碗の中でも異彩を放つ一点と言えます。

次回の展覧会

6月1日(木)
~7月9日(日)

前田育徳会尊経閣文庫分館	第2展示室
前田家 武の装いⅡ	琳派
第3・4展示室	第5展示室
第6展示室	第6展示室
優品選 [絵画・彫刻]	塗りもの -うるしと素地-
	日本画家 池田瑞月 -草花へのまなざし-

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(5月は1日)

今月の開館時間

午前9:30~午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00~午後7:00 年中無休

5月の休館日は
29日(月)~31日(水)

健康告知なしでカンタンに入れる
女性のための保険

月払 400円 全年齢 一時金

お手頃な保険料に安心がある方へ
無告知型女性特有疾病一時金保険

保険料は全年齢共通
20歳から79歳までの方が月払400円でお申込みできます。

女性特有の7つの病気を保障します。

保険金は一時金で最大10万円をお支払い

通話無料 0037-6001-67731
受付時間 10~19時(日曜定休)
お気軽にお問合せください!

引受保険会社 さくら少額短期保険株式会社
〒171-0014 東京都豊島区池袋二丁目16番13号 光ビル
保険募集代理店 株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング
広告有効期限:2017年11月30日 承認番号[343-HNN,1612]

石川県立美術館だより
第403号(毎月発行)
2017年5月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>